

## 第73回 大阪選手権大会 決勝リーグ

男子	松原	長瀬	桜台	巽	勝敗	順位
松原	/	60 ○ 58	64 ○ 53	55 ○ 39	3勝0敗	1位
		16 - 13	23 - 11	11 - 8		
		12 - 13	19 - 12	13 - 11		
		10 - 20	13 - 18	16 - 13		
		22 - 12	9 - 12	15 - 7		
近畿大会出場						
長瀬	/	58 ● 60	54 ○ 34	71 ○ 59	2勝1敗	2位
		13 - 16	13 - 11	22 - 17		
		13 - 12	15 - 10	19 - 12		
		20 - 10	17 - 5	20 - 10		
		12 - 22	9 - 8	10 - 20		
近畿大会出場						
桜台	/	53 ● 64	34 ● 54	57 ● 59	0勝3敗	4位
		11 - 23	11 - 13	11 - 16		
		12 - 19	10 - 15	12 - 20		
		18 - 13	5 - 17	16 - 16		
		12 - 9	8 - 9	18 - 7		
近畿大会出場						
巽	/	39 ● 55	59 ● 71	59 ○ 57	1勝2敗	3位
		8 - 11	17 - 22	16 - 11		
		11 - 13	12 - 19	20 - 12		
		13 - 16	10 - 20	16 - 16		
		7 - 15	20 - 10	7 - 18		
近畿大会出場						

女子	薫英女学院	布施	平野北	高南	勝敗	順位
薫英女学院	/	55 ○ 30	68 ○ 43	53 ● 60	2勝1敗	2位
		14 - 2	22 - 9	16 - 9		
		13 - 9	20 - 13	11 - 12		
		13 - 6	17 - 10	10 - 18		
		15 - 13	9 - 11	16 - 21		
近畿大会出場						
布施	/	30 ● 55	46 ● 56	28 ● 69	0勝3敗	4位
		2 - 14	13 - 18	5 - 14		
		9 - 13	13 - 10	4 - 12		
		6 - 13	11 - 22	11 - 25		
		13 - 15	9 - 6	8 - 18		
近畿大会出場						
平野北	/	43 ● 68	56 ○ 46	40 ● 69	1勝2敗	3位
		9 - 22	18 - 13	12 - 20		
		13 - 20	10 - 13	13 - 15		
		10 - 17	22 - 11	6 - 16		
		11 - 9	6 - 9	9 - 18		
近畿大会出場						
高南	/	60 ○ 53	69 ○ 28	69 ○ 40	3勝0敗	1位
		9 - 16	14 - 5	20 - 12		
		12 - 11	12 - 4	15 - 13		
		18 - 10	25 - 11	16 - 6		
		21 - 16	18 - 8	18 - 9		
近畿大会出場						

# 男子決勝リーグ戦評①

令和元年7月27日	A②	11:30	松原市立松原中学校	16	12	10	22		60
門真市立総合体育館			東大阪市立長瀬中学校	13	13	20	12		58

松原4・5・6・7・11、長瀬4・5・6・7・18でスタート。立ち上がりは長瀬が速い展開のバスケットでリズムを作りかけるが、松原がDFプレッシャーを強め、4・5のドライブ、7のミドルシュートを中心に盛り返し、松原の速攻が決まって長瀬のタイムアウト。その後は長瀬4の1on1から立て直し、1Qを松原16-13長瀬で終える。

2Qは序盤、長瀬4の3PTや6のリング下の粘り強いプレーで逆転し、松原がタイムアウト。その後は松原4の3PT、5の1on1で加点した。対する長瀬は4の速攻や3PTを中心に応戦し、前半を松原28-26長瀬で終える。

後半は松原4・5・7・8・11、長瀬4・5・6・7・18でスタート。長瀬が18を中心としたインサイドプレーで着実に得点を重ねる。一方松原は7のシュートや合わせのプレーで加点するも、長瀬の流れを止められず、3Qを松原38-48長瀬で終える。

4Qが始まり、松原4・5、長瀬4・5が互いにゆずらず得点を重ね、残り4分松原47-53長瀬で長瀬がタイムアウト。その後、松原7のシュート、5の連続ドライブなどで詰め寄り、残り2分松原57-54長瀬と逆転する。その後は一進一退の攻防が続き、残り6秒で松原4のスティールからのレイアップ。松原60-58長瀬となり、初戦を松原が制した。

令和元年7月27日	B②	11:30	岸和田市立桜台中学校	11	12	16	18		57
門真市立総合体育館			大阪市立巽中学校	16	20	16	7		59

白4・5・6・8・12、黒4・5・6・7・8でスタート。立ち上がり白は4のインサイドプレー、黒は激しいDFからの速攻で得点を奪い合う。白は6の1on1、3PTや4のインサイドを中心に攻めるがなかなかシュートが決まらない。一方黒はリバウンドからの速攻で得点を重ね、11-16黒のリードで1Q終了。

2Qは白4・5・6・12・14、黒4・5・6・13・15でスタート。城は6・4中心に攻めようとするものの、黒の激しいDFの前にうまくボールが回らず、2連続で24秒バイオレーションを取られてしまう。一方で黒は4・5のインサイドを起点に広いスペースへボールを展開し、ズレを作って1on1、3PTで効果的に点差を広げていく。黒4はフェイスガードをものともせず、バックカットからの得点や3PT、1on1など多彩なオフェンスで得点を重ね、23-36黒のリードで前半を終える。

3Qは白4・5・6・8・12、黒4・5・6・7・8でスタート。黒は前半の流れそのままにハイローや速攻。フリースローなどで加点していく。白は4がポストアップするがうまくパスを入れることができず、リズムの悪いOFが続く。残り4分で白の速攻が連続で決まり、黒がタイムアウト。その後黒は5のインサイドで確実に得点し、流れを渡さず、39-52黒のリードで3Qが終了。

4Qは白4・5・6・8・14、黒4・5・6・8・13でスタート。白は開始から4のインサイドを軸に攻めだす。黒はそれを止めることができず、少しずつ点差が縮まり始める。白の得点に黒はOFのリズムが崩れ、白の速攻から4のシュート。残り2分で白5の3PTが決まり1点差。4のインサイドでついに白が逆転するが、残り1分で黒4が3PTを決め、再度逆転。そのまま黒がリードを守り、57-59で黒が勝利した。

令和元年7月28日	A②	11:30	松原市立松原中学校	23	19	13	9		64
東大阪アリーナ			岸和田市立桜台中学校	11	12	18	12		53

松原4・5・6・7・11、桜台4・5・6・12・14でスタート。松原5のドライブで先制。続いて松原4がリバウンドからボールを受け、そのままレイアップまで持ち込み連取。桜台も4が取り返す。中盤、松原の速攻が決まり10-3で桜台のタイムアウト。桜台は6の3PT、12のドライブで得点を重ねるが、インサイドをおさえられ23-11で1Q終了。

2Q松原6のバスケットカウントからスタート、さらに速攻やドライブからの合わせで得点を重ね35-12で桜台の前半2回目のタイムアウト。その後は桜台6のドライブ、12の3PTと外からの攻撃が決まるが、松原の速い展開が続き42-23で前半終了。

後半松原は1Qと同様。桜台は4・5・6・7・12でスタート。桜台6の3PT、ドライブで連続得点。DFでも4の4本目のブロックショットで中をおさえ、6の後半2本目の3PTが決まり44-31。松原はタイムアウトで流れを切ろうとするが、桜台は中・外織り交ぜて10点差まで追いつく。3Q終了間際に松原4の3PTが決まり、55-41で3Q終了。

4Q開始2分間互いに得点が止まるが桜台4のターンシュートをきっかけに点の取り合いが始まる。桜台は6の外、4の中で得点し、再び10点差まで迫るが、松原は要所で得点を決め、64-53で試合終了となった。

## 男子決勝リーグ戦評②

令和元年7月28日	B②	11:30	東大阪市立長瀬中学校	22	19	20	10		71
	東大阪アリーナ		大阪市立巽中学校	17	12	10	20		59

1Q出だしから白の6・18がインサイドで1on1を仕掛け得点を重ねる。黒は4の3PT、6のドライブ、スクリーンプレーからの攻撃で得点を奪う。お互い速い展開で攻撃を仕掛ける。

2Qも白はディフェンスから速攻を仕掛けて得点を取る速い展開。黒はスクリーンプレーから攻める展開でスタート。お互いにタイムアウトを取ったあと、得点が止まるが、終盤、ディフェンスからの速攻でお互いに点を取り合った。

3Q序盤に白がエンドからのセットプレーで4の3PTや速攻で得点を重ね、黒のタイムアウト。その後、黒はハイロープレーや4の3PTで応戦するが、白は再びエンドスローインのセットプレーを確実に決め、速攻から得点を伸ばす。

4Q黒がオールコートでのディフェンスでプレッシャーをかける。黒は4が連続で3PTを決め、白は速攻からの1on1で応戦する。黒は速攻から4の3PT、ドライブで得点を伸ばすが、ファウルからのフリースローを決められ、71-59で白の勝利となった。

令和元年7月28日	A4	14:30	大阪市立巽中学校	8	11	13	7		39
	東大阪アリーナ		松原市立松原中学校	11	13	16	15		55

白4・5・6・7・8、黒4・5・6・7・11でスタート。白は4を中心に1on1や速攻で得点を重ねる。一方、黒は合わせや速攻を中心に加点。1Qは互いに粘り強いディフェンスが光り、白8-11黒で終える。

2Qに入り、黒は4を中心に5への合わせや速攻で着実に加点。白10-19黒となり、白のタイムアウト。その後白も4の1on1を中心に13への合わせや7の3PTで2点差まで追いつくも、黒7が3PTを決め、白19-24黒で前半終了。

後半は白4・6・7・8・13、黒4・5・6・7・11でスタート。立ち上がり黒4からのアシストで5の3連続得点、7の3PTが決まる。対する白は13のスティール、4から15への合わせなどで得点するも、白25-38黒で白のタイムアウト。その後は白4のスティール、6の3PTなどで点差を縮め、白32-40黒で3Qを終える。

4Q、黒は5の1on1、11のジャンプシュートなどで着実に加点。一方、白は5の1on1などを試みるがなかなか得点につながらず、残り4分白34-50黒となる。その後、白4の3PT、5のゴール下で粘りを見せるも黒も7の1on1や4の速攻で加点。白39-55黒でタイムアップとなった。

令和元年7月28日	B4	14:30	岸和田市立桜台中学校	11	10	5	8		34
	東大阪アリーナ		東大阪市立長瀬中学校	13	15	17	9		54

白4・5・6・8・12、青4・5・6・7・18でスタート。両チームハーフマンツウでスタート。白は4のインサイドや、6中心の外回りなどで攻撃を仕掛ける。対する青は4のドライブを中心に展開し、6・18のゴール下で得点を重ねる。途中、白5が青4をフェイスガードし、流れを止めにかかるが、ランニングプレーで崩される。

2Q、残り2分で白は6のドライブや4のインサイドで点差を縮めるが、青の6から18へのハイロープレー、4のスティールなどで応戦。白21-28青で前半終了。

3Q、両チームゲーム開始時と同じメンバーでスタート。青は18のインサイドで先制。その後も4のドライブや合わせからの得点で、4を中心に流れをつくる。オフェンスでは18・6のハイロー、7のドライブなどディフェンスではリバウンド・ルーズボールで粘り、相手のリズムを作らせない。対する白もインサイドで4、アウトサイドで6から攻撃しようとするも青のディフェンスに阻まれ、攻撃の糸口が見つからないまま3Q終了。

4Qも3Qと同様の流れでスタート。両チーム連戦の疲れからか足が止まり始め、シュートミスが目立ち、ゲームは膠着状態に。白は4がアウトサイドからの得点で点差を詰めようとするが、青は要所で4のドライブや5と6の合わせで得点し、主導権を握らせない。残り11秒で青の8の3PTが決まる。リバウンド・ルーズボールを確実にマイボールにし続けた青が54-34で勝利した。

## 女子決勝リーグ戦評①

令和元年7月27日	A1	10:00	私立大阪薫英女学院中学校	14	13	13	15		55
門真市立総合体育館			東大阪市立布施中学校	2	9	6	13		30

薫英4・5・6・12・17、布施4・5・6・9・13でスタート。両チームともハーフマンツーでゲームが始まる。薫英は4・12のドライブ、5のポストプレーでバランスよく得点する。一方の布施は4・5・13の高さを活かしたプレーで得点を奪おうとするが、薫英の堅い守りを崩すことができない。布施は6のドライブからのバスケットカウントで得点するも、27-11薫英のリードで前半終了。

後半も両チーム同じメンバーでスタート。布施はオフェンスリバウンドを頑張り、4のポストプレーで得点するが、薫英5の連続3PTや合わせのプレーで得点を返されてしまう。

4Qになっても薫英の勢いは止まらず、12のドライブや9の3PTで得点を重ねる。布施もオフェンスリバウンドや4の3PTで粘りを見せるが、堅いディフェンスとルーズボールを支配した薫英が55-30で決勝リーグ初戦を勝利した。

令和元年7月27日	B1	10:00	大阪市立平野北中学校	12	13	6	9		40
門真市立総合体育館			高石市立高南中学校	20	15	16	18		69

1Q白4・5・6・7・10、緑8・9・10・12・13でスタート。緑12のシュートで高南が先制、お互い点の取り合いになるが、白のシュートが徐々に決まらなくなり、緑は8・9・13が得点し、つきはなしていく。1Qラストプレーで緑13が得点し、20-12高南リードで終了。

2Qは13・9が連続して得点し、つきはなそうとする。対して白はなかなか得点できない時間が続く。しかし、白5の3連続3PTで点差を縮める。緑も8・9を中心に得点するが、白4が連続得点し応戦する。35-25高南リードで終了。

3Qは緑13・8が得点し点差を広げる。白はなかなか得点が決まらず苦しい時間が続く。緑はその後8・9を中心に得点を重ねて、中盤で一気に点差を広げ、51-31高南リードで終了。

4Qに入ってもなかなか点差が縮まらず、緑はメンバーチェンジをしながらも、8・9を中心に堅い守りで得点を与えない。白は4・9が少しずつ得点を返していく。終盤、緑10が連続得点し、点差が広がり、69-40で高南が勝利した。

令和元年7月28日	A1	10:00	私立大阪薫英女学院中学校	22	20	17	9		68
東大阪アリーナ			大阪市立平野北中学校	9	13	10	11		43

薫英4・5・6・12・17、平野北4・5・6・7・10でスタート。立ち上がり、薫英は12・17のドライブで得点を重ねていく。一方、平野北も4・5を中心に攻めるが、得点できずタイムアウト。その後、平野北は4の3PTや5の1on1で追撃するが、薫英は12の3PTなどでリードを広げ、22-9薫英リードで1Q終了。

2Q、薫英は4・17を中心に得点を重ねる。それに対し、平野北は5・10の3PT、7のリバウンドで応戦する。薫英のタイムアウト後、平野北は5の1on1、9の3PTで追い上げるが、薫英は12・7の1on1や積極的なディフェンスで粘り、41-22薫英リードで前半終了。

後半は両チームスタートメンバーに戻して開始。追いつきたい平野北は、積極的にボールを奪いに行く。対する薫英は落ち着いてボールを回し、逆に激しいDFからの速攻で点差を広げていく。たまたま平野北がタイムアウトを取り、その後は5・10を中心に攻めるが、薫英は15・17のインサイドで取り返す。一進一退の攻防が続き、58-32薫英リードで3Q終了。

4Q、薫英は4を中心とした速いパス回しで攻撃する。平野北は積極的な1on1で薫英のファウルを誘い、少しずつ点差を縮めようとする。終盤、平野北は積極的なディフェンスで仕掛けるが、薫英が着実に得点を重ね、67-43で薫英が勝利した。

## 女子決勝リーグ戦評②

令和元年7月28日	B1	10:00	東大阪市立布施中学校	5	4	11	8		28
	東大阪アリーナ		高石市立高南中学校	14	12	25	18		69

布施4・5・6・9・13、高南8・9・10・12・13でスタート。布施は5のインサイド中心にOFを展開。一方、高南は激しいDFから9の速攻で得点を積み重ね、5-14高南リードで1Q終了。

2Qに入ると高南が布施のインサイドの攻撃に対し、さらにプレッシャーをかけ、ボールを奪っての速攻で勢いに乗る。9-26高南リードで前半終了。

前半の勢いそのままに、高南は13・12の連続3PTが決まり、さらに8のドライブ、10のジャンプシュートで加点していく。一方、布施は4のインサイドと3PTで応戦するが、4本の3PTを決めた高南が20-51とリードを広げた。

4Qに入ると両者ともシュートがよく決まり、互いに譲らない展開となったが、28-79で高南が勝利をおさめた。

令和元年7月28日	A3	13:00	高石市立高南中学校	9	12	18	21		60
	東大阪アリーナ		私立大阪薫英女学院中学校	16	11	10	16		53

高南8・9・10・12・13、薫英4・5・6・12・17でスタート。薫英は4のドライブインで先制。その後、12・17の得点で流れをつかもうとする。高南が残り4分でタイムアウト。その後、高南8のドライブイン、9の3PTで追撃し、9-16薫英リードで1Q終了。

2Q、開始早々高南は12・13の連続3PT、10のジャンプシュートで同点に追いつき、薫英残り3分でタイムアウト。その後、薫英は4のドライブ、5の3PTで流れを引き戻そうとするが、高南も10の連続ミドルシュートで追いつく。21-27薫英リードで前半終了。

3Qは薫英は12の3PTでリードを広げようとするが高南も12のジャンプシュートで応戦。薫英は4のバスケットカウント、17のリバウンドシュートで流れをつかもうとするが、高南も負けじと9・12・13の3PTで一気に逆転し、39-37高南リードで3Q終了。

4Q、追いつきたい薫英は4の1on1で攻撃をしかけるが、高南は12・13の3PTで流れを渡さない。高南はアウトサイド、薫英はペネトレイトで両者一進一退の攻防が続く。残り4分で薫英タイムアウト。流れを変えようとするが、高南8のドライブ、バスケットカウントで逆に点差を広げられてしまう。薫英が前からプレッシャーをかけるが、高南が落ち着いてボールを回し、60-53で見事初優勝をはたした。

令和元年7月28日	B3	13:00	大阪市立平野北中学校	18	10	22	6		56
	東大阪アリーナ		東大阪市立布施中学校	13	13	11	9		46

1Q、平野北4・5・6・7・10、布施4・5・6・9・13でスタート。両チームともにハーフマンツーで守る中、平野北は4のジャンプシュートで先制。対する布施はインサイドを起点としながら攻撃し、9のジャンプシュート、6のドライブで得点を重ねる。平野北は6・10・5の3PTが4本決まり、18-13平野北リードで1Q終了。

2Q、平野北は10の3PTが決まる。布施はオフェンスリバウンドからチャンスを作り、得点を重ねる。布施6のドライブインが決まり、23-21の2点差になり、平野北のタイムアウト。その後、平野北は5の3PT、ジャンプシュートと連続得点し流れを渡さない。一方、布施も6のドライブ、4の3PTで応戦し、28-26平野北リードで前半終了。

3Q、平野北は5のドライブ、3PTなど4連続得点をあげ、点差を広げる。対する布施は開始3分半無得点で、苦しい時間となり、タイムアウト。その後、9の1on1、13のインサイドプレーで巻き返すが、平野北も譲らず、50-37で3Q終了。

4Q、布施が11・4を中心に速い展開から反撃するも得点には至らない。一方、平野北はこの試合7本目の3PTを沈める。56-46で平野北がリーグ最終戦を勝利で終えた。